

窓辺

三本の矢

もり ひろし
毛利 博

世界は流動化し、不安定
になっていきます。医療も同
じです。日本は「医療の幕
末期」で大きな変革が起き
る予感がします。「坂本龍
馬」のように自分の信念を
貫き、医療を動かせる逸材
が出てこなければいけませ
ん。

静岡県は潜在的な能力が
あると確信していますが、
十分に発揮されていません。
十分に発揮されていませ
ん。争いを避ける温厚な方
が多く、まさに「眠れる獅
子」かもしれません。覚醒
させるために、県は積極的
に目玉施策を打ち出し、医

療などさまざまな分野の活
性化を図り、若者が住みた
いと思う地域にすることが
大切です。

医療は医師不足の中、病
院の在り方、働き方改革な
ど大きな課題を抱えていま
す。一歩先を見通した行動
が求められています。

県全体の医療の発展に携
わりながら、私の中の「山
賊と海賊の遺伝子」が騒ぎ
ます。「三本の矢」もまた
毛利家の「家訓」として私
の中に生きています。
医療における三本の矢は
地域住民、行政、そして医

療関係機関です。いまや連
携が欠かせなくなった医療
には、三本の矢に関わる人
たちの顔の見える関係を構
築すべきだと思います。そ
のように考えて明日の医療
を推進していきたい。

医療はさまざまな問題を
抱えまさに正念場です。行
政、医療が連携し、県民の
健康を守ることを第一に考
えて行動することが肝要だ
とコロナ禍も教えていま
す。これは待ったなしです。

「窓辺」の連載を機に医
療が抱える諸問題をお話し
してきました。少しでもこ
理解いただければと思いま
す。皆さん、よいお年をお
迎えください。

（県病院協会 会長）
藤枝市病院事業管理者